

contents 05

コンポーネント③ 「うごく」農村編

概要および目的

「うごく」農村編、では、普段と異なる環境に身を置くことによる新たな自分の発見や、共同生活による協調性や自立した生活へのステップ、そしてコミュニケーションを深めることを目的としました。都会の利便性を離れ、異なる環境の中で生活することで、自分自身を成長させることが出来ました。

プログラム内容

① 農業プログラムに関して

夏期はホップ圃場やさつまいも圃場の除草作業、摘果作業、ハウスの整備を中心に実施。単調な作業が多く、暑さとの戦いでしたが、目に見えて成果がわかる除草作業は「自分がこの場所の草を抜いてきれいにした」という「自信」をつける一歩になりました。

② EC サイト制作前農家ヒアリングに関して

農業プログラムと同時に、生産者の方の EC サイトの制作にもチャレンジしました。事前の生産者のインタビューや、写真撮影を行うことで、普段接する大人たちとは別の第三者とのコミュニケーション力を身につけるとともに、生産物の裏側にあるストーリーを知る経験になりました。この経験が一番緊張したという声も多くなりました。

③ EC サイト制作について

2日間にわたる講座の中で、これまでパソコンに触れる機会がなかった若者たちは、専門用語が難しいという声もありましたが、ともに学ぶ「仲間」と EC サイトを作りあげることで「話し合う」ことが出来、EC サイト制作のテクニカルな部分だけではなく、コミュニケーションや他社理解を学ぶ機会になりました。

④ ドローン講座について

講座の中では農業の現場で活用され始めているドローンの操作も体験。見たこともないという声も多かったのですが、実際の操作を学ぶ中で論理的な考え方や、IT と農業の可能性を体感することが出来ました。



農業実習 受け入れ先からの声

実習担当：一般社団法人イシノマキ・ファーム

コロナ禍でオンライン化が進み、人とのかわりが希薄になる中、農村留学はコミュニケーションを学ぶ良い機会でした。それまでいつでも買い物が出来たり、いつでもお店が空いているような環境から、太陽のリズムとともに生活する環境に身を置くことは、本来の自分の力を取り戻す機会になりました。今回のプログラムから農業を職業選択の一つとした若者もいたため、今後も継続してキャリア形成のためのプログラムとして継続したいと考えています。

